

<p>教育目標(めざす児童生徒像)</p>	<p>今年度の指導の重点</p>
<p>たくましく伸びる子の育成                  良く学び、工夫する子                  思いやりのある子                  元気で明るい子</p>	<p>1.基礎学力・表現力の向上                  2.認め合い支え合う仲間づくり                  3.「生きる力」の育成                  4.基本的生活習慣の確立                  5.人権教育の推進                  6.健康・体力の増進</p>

<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】                  全国                  国語A B、算数A Bともに県平均、全国平均を下回っている。                  国語Aの話すこと・聞くことで県平均と全国平均を上回った。                  書くことにおいて県平均と全国平均を特に下回っている。                  問題形式については国語Aの選択式で県平均を上回っているが、短答式になると県・全国平均ともに下回り、記述式になると大きく下回っている。                  算数についてはA B問題ともに全ての観点で県・全国平均を下回った。特に、算数B問題において数学的な考え方が県平均や全国平均に比べ大きく下回っている。                  問題形式については、選択式・短答式で県・全国平均に近く、算数B問題の短答式については県平均を上回っていた。                  記述式については国語同様、県・全国平均を大きく下回っている。                  県                  国語の基礎問題で県平均を上回った以外は、県平均を下回るという結果ではあったが、3年間の経年比較においては、全ての教科、ほとんどの観点別で大きく標準スコアが伸びている。                  漢字の読み書きの正答率が県平均に比べて高い。                  数学の領域別正答率において「図形」と「数量関係」で県平均を上回っている。                  いずれの教科においても文章で記述する問題や説明をする問題などにおいて県平均に比べて無回答率が高い。</p>	<p>【学習状況調査の結果】                  平日のテレビ等の視聴時間が昨年度に比べ大きく減少し、県平均並みになった。                  テレビゲームを平日に1時間～2時間以上している児童の割合が県や全国平均より多い。                  家庭での学習時間が1時間以上の割合が県平均に比べて若干多いが、30分未満の児童の割合が多い。                  家庭での学習時間が昨年度に比べて、平日・休日ともに長くなっている。休日の勉強時間が1時間未満の児童の割合が県や全国平均に比べて高い。                  読書が好きな児童が県平均を上回っている。反面、授業以外(図書館や家)での読書時間が短く、全くしない児童も多い。また、授業以外で学校の図書室や地域の図書館へ行く児童が少ない。                  携帯電話を持っている割合が県平均に比べて高い。                  平日の就寝時刻が午後10時以降や午後11時以降の児童の割合が県や全国平均に比べて高い。                  地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある児童の割合が県や全国平均に比べて高い。                  近所の人に会ったときは、あいさつをしている児童の割合が昨年より上がり、県や全国平均を上回った。</p>

<p>成果と課題</p> <p>高学年を中心に自主学習への取り組みを進めたことにより、学習した内容について家で自分なりに整理し直したり、より深く調べたりしている児童が増えてきている。                  文章で解答したり、説明したりする問題に対しての無回答率が高い。                  選択肢がある問題については無回答率が低い。                  国語・算数ともに活用型の問題を特に苦手としているが、基礎的・基本的な定着が不十分な児童も多い。                  個人による基礎的な学力の差が大きく、低位層の(低学年からの)学習の積み重ねが不十分である。                  算数が好きな児童の割合が高い。                  自分にとって難しいと感じる問題や新しく出会った問題に対して取り組む意欲が不足している(すくにあきらめてしまふ)。                  授業などで自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しいと思っている児童が多い。</p>	<p>課題に対応した改善方法</p> <p>授業のまとめにおいて、キーワード(大切な言葉)などを使って自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。                  単元や学期・学年末などに到達度確認テストを行ったり、問題を抽出し授業の中で解いたりすることで、定着の確認や授業の復習に役立てるなどする。                  朝学習や国語・算数の授業の始めなどに、漢字や計算などの小テストを行う。                  中学校区で「チャイムで授業を始める」、「(話を聞くときの)よい姿勢」に取り組む。                  各学年で1年間でこれだけは身に付けさせたい(重点的な)取り組みを設定し授業外の時間や家庭とも連携しながら定着させていく。                  学力・学習状況調査の問題を授業のまとめや発展的な学習として取り入れていく。                  各教科で予想や自分の考えをもとにペア学習やグループ学習を取り入れ、多くの児童に自分の考えや説明を述べる機会を与える。                  授業の中で国語辞典や漢字辞典の活用場面を増やしていき、自分で調べることへ慣れさせていく。                  音読の機会を増やしたり(授業・家庭学習)、工夫(一斉読み・グループ読み・二人読みなど)したりする。</p>
--	---

<p>取組の検証方法及び検証時期</p> <p>学校独自の全国標準学力検査の実施(4月に前学年の内容のものを実施)                  グッドすいみん運動の実施(7月と1月の年間2回)                  国語(話すこと・聞くこと)についての児童の実態アンケートの実施(7月と1月下旬の年間2回)</p>	<p>達成目標(数値目標)</p> <p>家庭学習が30分未満の児童の割合を下げる。                  めあてとまとめがある授業の割合を上げる(課題の明確化と課題にそったまとめ方の工夫)。                  グッドすいみん運動への取り組みを通して、全員が最低8時間以上の睡眠時刻を確保するとともに、児童自身が就寝時刻を設定し規則正しい生活を送ることができるようにする。</p>
--	--